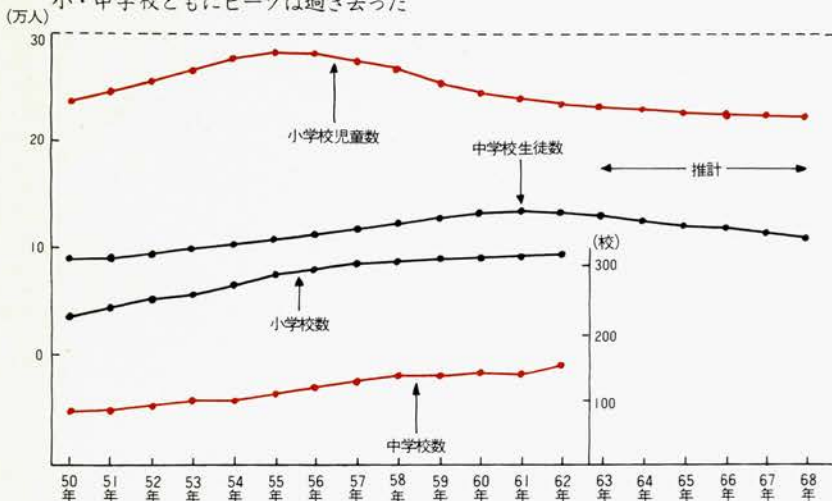


■児童・生徒数

小・中学校ともにピークは過ぎ去った



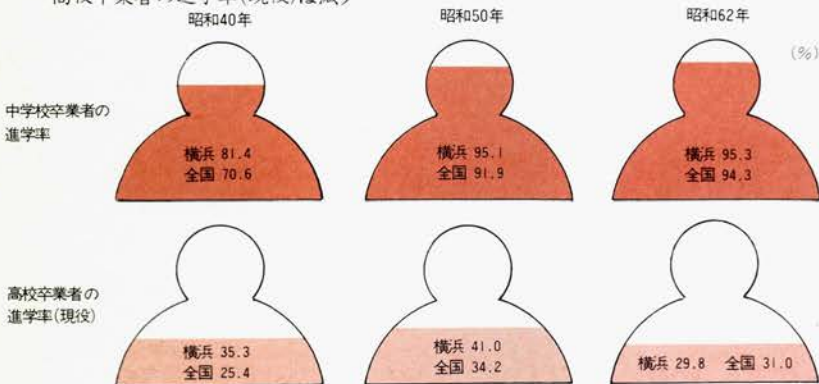
小学校児童数は55年度、中学校生徒数は61年度を境に減少に転じた。

昭和50年前後は小・中学校の建設ラッシュが続いたが、開校数が最も多かったのは、小学校では51年度の15校、中学校では56年度の9校。63年度の開校数は小学校5、中学校2。

(資料：教育委員会)

■進学率

高校卒業者の進学率(現役)は減少



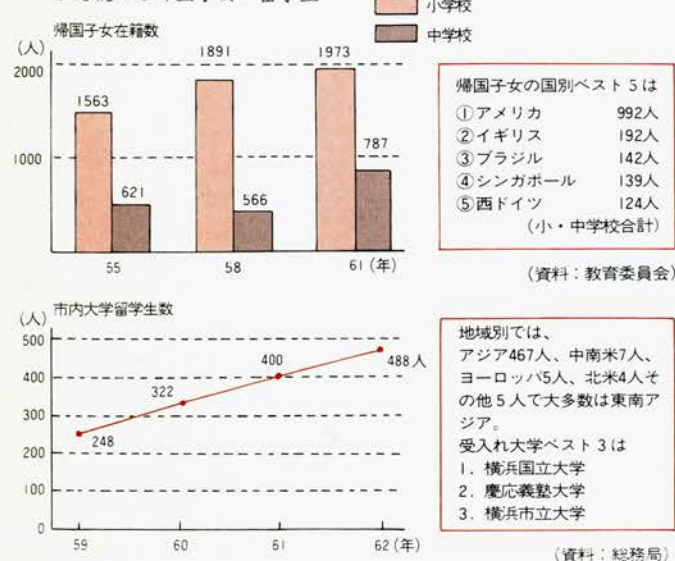
市内の高校数は県立52、市立10、私立35計97校。短大は県立3、私立8。大学は国立1、市立1、私立7。

学校基本調査では、現役入学者以外は対象としていないので、浪人者を含めた進学率は不明。就職率の減少により傾向はわかる(62年21.9%、50年28.0%、40年50.2%)。

(学校基本調査)

■教育の国際化

ふえ続ける帰国子女・留学生



- 帰国子女の国別ベスト5は
- ①アメリカ 992人
  - ②イギリス 192人
  - ③ブラジル 142人
  - ④シンガポール 139人
  - ⑤西ドイツ 124人
- (小・中学校合計)

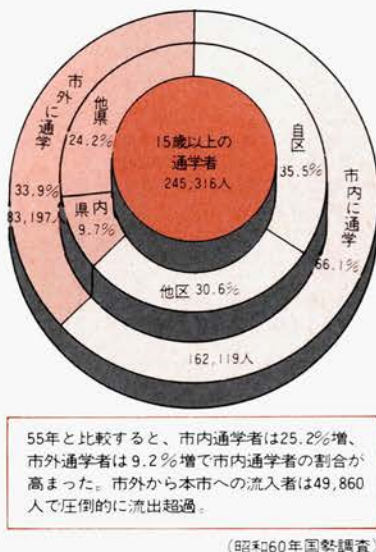
(資料：教育委員会)

- 地域別では、アジア467人、中南米7人、ヨーロッパ5人、北米4人その他の5人で大多数は東南アジア。
- 受入れ大学ベスト3は
1. 横浜国立大学
  2. 慶応義塾大学
  3. 横浜市立大学

(資料：総務局)

■15歳以上の通学人口

3分の1は市外へ通学

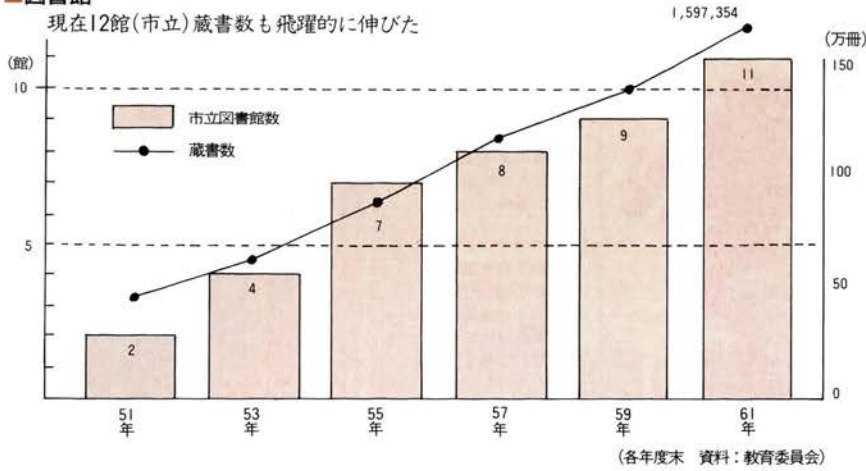


55年と比較すると、市内通学者は25.2%増、市外通学者は9.2%増で市内通学者の割合が高まった。市外から本市への流入者は49,860人で圧倒的に流出超過。

(昭和60年国勢調査)

図書館

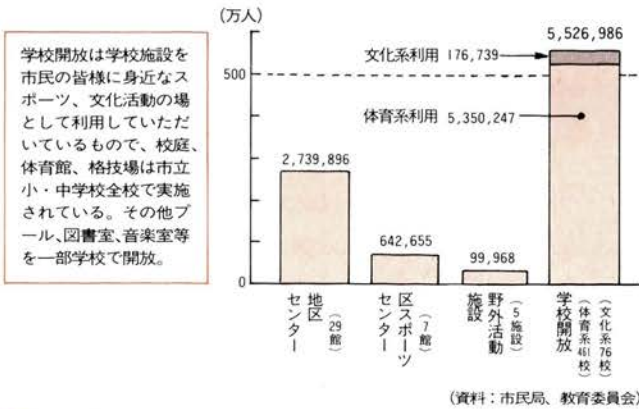
現在12館(市立)蔵書数も飛躍的に伸びた



図書館は1区1館整備をすすめており、62年10月神奈川が開館。現在、中、栄、泉区で建設中。未着手は南区のみ。個人貸出登録者数は、462,076人で市民の15.1%を占める(61年度)

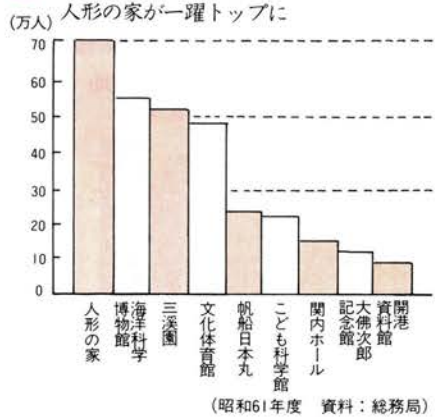
61年度の個人貸出冊数は4,229,000冊で、市民1人当たり1.4冊借りたことになる。

市民利用施設等の利用者数



学校開放は学校施設を市民の皆様に身近なスポーツ、文化活動の場として利用していただいているもので、校庭、体育館、格技場は市立小・中学校全校で実施されている。その他プール、図書室、音楽室等を一部学校で開放。

文化施設等の入場者数



公共文化・スポーツ施設区別箇所数

文化施設……図書館、ホール、ギャラリー、博物館、公会堂、地区センター、青少年図書館  
 スポーツ施設……野球場、テニスコート、スポーツセンター、スポーツ会館、プール、スポーツ施設をもつ公園

施設名	施設内容	開館等の時間	休館日	利用料	備考
地区センター	体育室、プレイルーム、和室、図書コーナー等	平日 9:00 ~ 21:00 日曜 9:00 ~ 17:00	月曜日 祝日 年末年始	原則として無料	
公会堂	講堂、会議室、和室等	8:45 ~ 22:00	月曜日 年末年始	200円 30,000円	
図書館		平日 9:30 ~ 19:00 土日曜 9:00 ~ 17:00	月曜日 祝日 年末年始	無料	市図書館は9:00から
区スポーツセンター	体育室、トレーニング室、研修室等	9:00 ~ 21:00	月曜日 祝日の翌日	3時間 1,500円 6,000円 個人1回 200円	※63.7.1からの利用料
公園野球場	バックネット等一部夜間照明あり	10:00 ~ 17:00	月曜日 祝日	1面1時間 1,000円	夏季時間延長あり
公園テニスコート	オールウェザーコート又はクレイコート	10:00 ~ 17:00	月曜日 祝日	1面1時間 600円	夏季時間延長あり

